



第一鋼業株式会社

2022 年度 環境経営レポート

(対象期間：2021 年12月21日～ 2022 年12月20日)



発行日： 令和4年12月27日

目 次

項 目	ページ
あいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価	7
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	10
緊急事態対応訓練	11
代表者による全体の評価と見直し・指示	12
これまでの環境活動の紹介	13

□ごあいさつ

環境を考えることは企業の義務です。有害物質を出さない事、リサイクルの輪を断ち切るような製品を出さない事、省資源の考え方などを基本に製品作りをすることが我々に課せられた使命と考えます。この考え方を基本にして製品作りをすすめるとともに次世代の環境にやさしい処理を探索し、もの造りに専念いたします。

第一鋼業株式会社

代表取締役社長 妻藤 誠

環境経営方針

<環境経営理念>

第一鋼業株式会社は金属剪断刃物・機械部品の製造及び金属熱処理加工を行う工場としての事業活動を通じて、地球温暖化の緩和に向けた取り組みや様々な環境活動に全員参加で自主的・積極的に取り組むと同時に、環境経営の継続的改善を行います。

<環境保全への行動指針>

- 1 . 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
- 2 . 創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 3 . 廃棄ロスをなくす等廃棄物の発生抑制とその削減につとめます。
- 4 . 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
- 5 . 洗浄剤などの化学薬品の適正管理に努めます。
- 6 . 環境に配慮した生産活動を進めます。
- 7 . 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。

制定日： 2017年7月16日

代表取締役社長 妻藤 誠

□組織の概要

更新日：2022年12月27日

- (1) 名称及び代表者名
第一鋼業株式会社
代表取締役社長 妻藤 誠
- (2) 所在地
本 社 大阪市西成区南津守6-3-22
本社工場 同上
九州工場 福岡県北九州市若松区南二島2丁目25番1号
東京営業所 東京都大田区東六郷3丁目9番9号
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 総務部 宇野 眞博 TEL：06-6651-8368
- (4) 事業内容
金属剪断刃物や機械部品の製造 金属熱処理加工
- (5) 事業の規模
売上高 108,813 万円 (2021年度)
- | | 本社 | 九州工場 | 東京営業所 | 合計 |
|-------|---------|-------|-------|---------|
| 従業員 | 65 名 | 8 名 | 3 名 | 76 名 |
| 延べ床面積 | 4,705 ㎡ | 500 ㎡ | 88 ㎡ | 5,293 ㎡ |
- (6) 事業年度 前年12月21日～12月20日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 第一鋼業株式会社
対象事業所： 本社・工場、九州工場、東京営業所
活動： 金属剪断刃物や機械部品の製造 金属熱処理加工

□事業や製品(商品)の紹介



環境処理用粉碎刃



熱間用シャーナイフ



スクラップシャーナイフ

ライナー

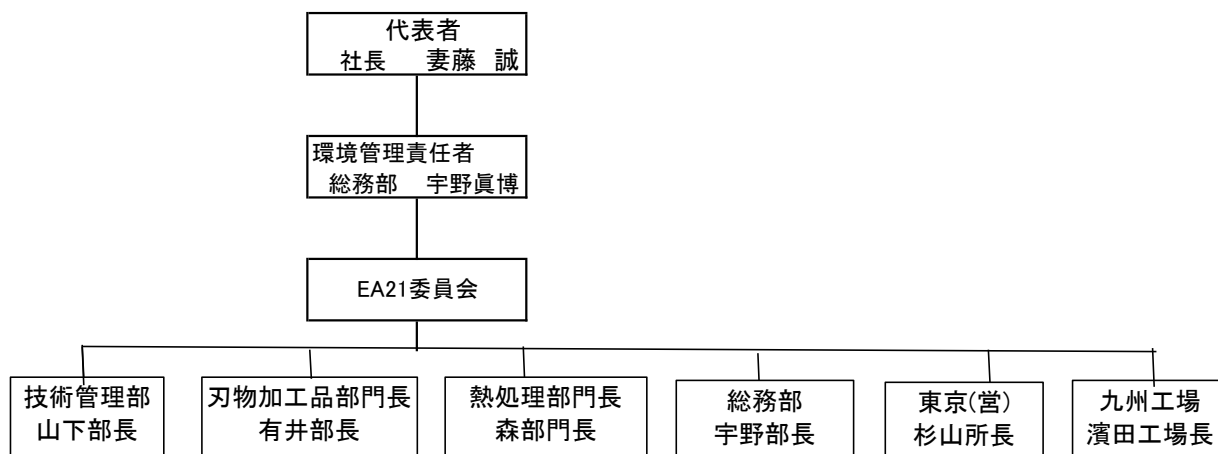


スライドウェイ



□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2022年12月15日



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認 ・環境管理責任者の補佐、EA21委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
EA21委員会	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
内部監査チーム	・環境に関する内部監査の計画 ・環境に関する内部監査の実施・報告
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2017年	2020年	2021年	2022年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	3,085,312	2,474,004	2,935,014	3,114,310
廃棄物排出量					
一般廃棄物排出量	kg	2,606	7,877	7,310	7,069
産業廃棄物排出量	kg	63,435	137,987	82,329	97,504
総排水量	m ³	6,536	6,112	5,966	5,776

※二酸化炭素排出係数 0.496 kg-CO₂/kWh 関西電力の調整後の係数
※産業廃棄物排出量には、有価物67222kgを含んでいます。

□環境経営目標及びその実績

2022年度EA21環境目標（※SDGs取組関連目標も含む）

- (1)電力による二酸化炭素削減

2017年度基準比 2%削減
- (2)都市ガスによる二酸化炭素削減

2017年度基準比 2%削減
- (3)自動車燃料による二酸化炭素削減

2017年度基準比 2%削減
- (4)一般廃棄物の削減(コピー用紙)

2017年度基準比 2%削減
- (5)産業廃棄物の削減

2017年度基準比 2%削減
- (6)水道水の削減

2017年度基準比 2%削減
- (7)洗浄剤使用量削減

2017年度基準比 2%削減
- 及び環境に配慮した生産活動(改善、安全衛生、5S、ISO9001、BCP)

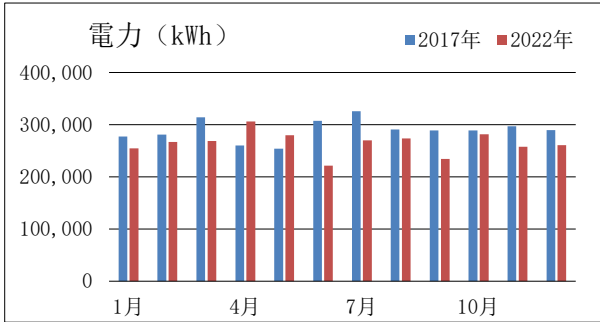


年 度 項 目		基準値	2022年		評価	2023年	2024年	
		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)	
電	kg-CO2	1,734,872	1,700,174	1,575,806	○	1,700,174	1,682,825	
	基準年度比	2017年	98%	91%		98%	97%	
都市ガスによる二酸化炭素削減	kg-CO2	1,281,879	1,256,241	1,463,811	×	1,256,241	1,243,423	
	基準年度比	2017年	98%	114%		98%	97%	
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2	57,843	56,686	66,144	×	56,686	56,107	
	基準年度比	2017年	98%	114%		98%	97%	
上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO2	3,074,593	3,013,101	3,105,762	×	3,013,101	2,982,355
一般廃棄物の削減(コピー用紙)	kg	969	950	789	○	950	940	
	基準年度比	2017年	98%	81%		98%	97%	
産業廃棄物の削減	kg	51,725	50,691	92,840	×	50,691	50,174	
	基準年度比	2017年	0.98	179%		0.98	0.97	
水道水の削減	m³	6,536	6,405	5,776	○	6,405	6,339	
	基準年度比	2017年	98%	88%		98%	97%	
洗浄剤使用量削減	kg	140	137	0	○	137	136	
	基準年度比	2017年	98%	0%		98%	97%	
環境に配慮した生産活動		行動目標(次項による)						

環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組み

数値目標:○達成 ×未達成
活動:◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価
電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	○	機械、研削工場生産の効率化残業時間前年比5%減少については達成率105%と削減できた。今後は稼働率向上から夜間操業用のプログラムにも注力していくので電力費は増える見込みであるが生産性の向上につなげたい。熱処理は焼入れ炉の充填率、稼働率の監視を続け各焼入れ炉の分析を行う
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃前後)	○	
・機械、研削工場生産の効率化残業時間前年比	×	
・各エアコンフィルターの清掃点検(省エネパトロール)	○	
・デマンドオーバー監視(740kw以下)に抑える	○	
・バッテリーフォークリフトのメンテナンス(月次・半)	○	



取組紹介欄



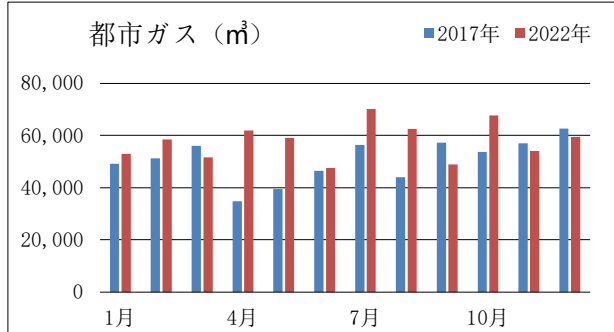
旧変電設備を更新

次年度の取組内容

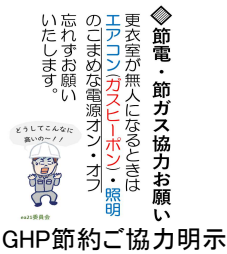
ガス同様、電気使用量についても加工高の変動による影響が大きいので生産効率など向上が必要それらを考慮した使用量削減を検討する。また老朽化しつつある社内空調設備部分も費用対効果をみながら検討していく

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	277,576	281,322	314,513	260,267	253,945	307,527	326,080	290,758	289,336	289,336	296,962	289,938
2022年	254,451	266,967	268,913	306,479	279,836	221,429	269,921	273,565	234,468	281,866	258,002	261,131

都市ガスによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	×	都市ガスについてデマンド監視はぎりぎりの時もあったが警報が鳴ったときの対処、調整がうまくコントロールできるようになってきている。しかし高沸するガス代は生産を続ける上には経営自体を圧迫するものがある。金額は国の政策への期待もあるが使用量削減は生産量からも難しく未達成であった。省エネバーナー導入などの投資をとまなう抜本的な取り組みも必要と考える
・都市ガスデマンドによる管理(205m3以下)	○	
・熱処理炉の充填率分析	○	
・省エネ法に対応する管理基準の点検表運用	○	
・省エネ法定期報告書、中長期計画書作成	○	



取組紹介欄

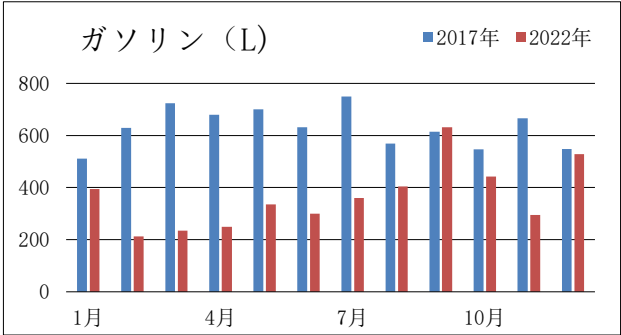


次年度の取組内容

ガスエネルギー使用量については炉への充填率も大きく影響する。できるだけたくさん充填するのが効果的なのだが、とはいえ納期厳守でもあるので工程を考慮した使用量削減を検討する。また電気同様、老朽化しつつある社内空調設備部分も費用対効果をみながら検討していく

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	49,138	51,174	55,962	34,809	39,397	46,445	56,410	43,983	57,311	53,692	57,087	62,570
2022年	52,960	58,388	51,579	61,967	59,056	47,597	70,032	62,458	48,936	67,696	54,112	59,485

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	×	毎月の売上と運搬費の比率を管理していく(0.5%以下)については0.41%にとどめ達成した。しかしディーゼル車トラックとガソリンデッキバンと2台数が増えていることから2017年度比では増加となっている、またガソリン車は2台が2017年度からハイブリッド車になった分、低減はしている、リース満了時に低燃費車の検討とともに引き続き配送の効率化なども検討したい
・毎月の売上と運搬費の比率を管理していく	△	
・各自、体調管理、法令順守し無事故、無違反	○	
・ガソリン、軽油の使用量を監視する東京営業	○	
・アイドリングストップ推進(生産管理課 中)	○	



取組紹介欄

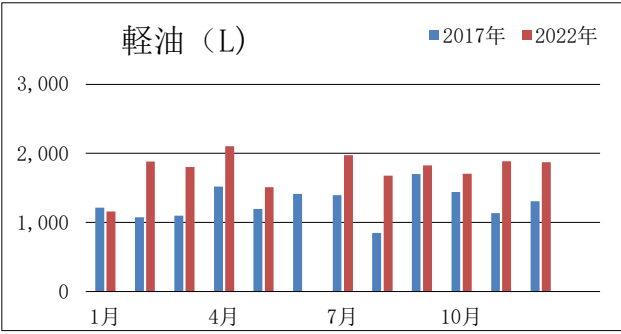


全台バッテリー
フォークリフト化

次年度の取組内容

毎月の売上と運搬費の比率の管理は目標達成だか2017年度比では軽デッキバン増加となっているにもかかわらず当時のガソリン車は2台が2017年度からハイブリッド車になった分低減はしている、リース満了時に低燃費車の検討とともに引き続き配送の効率化なども検討したい

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	511	629	724	680	700	631	749	569	615	547	666	548
2022年	395	213	234	249	336	299	359	405	631	441	295	529



取組紹介欄



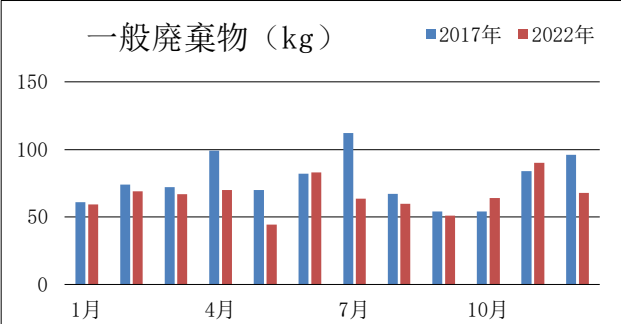
アイドリングストップ
運動

次年度の取組内容

2017年当時からすると1台のディーゼルトラック増となっているのが使用量の増加になっているが引き続きアイドリングストップなどの基本の取り組みを重視したい。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	1,212	1,073	1,097	1,521	1,196	1,417	1,394	847	1,703	1,439	1,138	1,307
2022年	1,157	1,881	1,801	2,105	1,511	0	1,974	1,679	1,829	1,707	1,887	1,870

一般廃棄物の削減(コピー用紙)	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	○	一般廃棄物の中でもコピー用紙の使用量削減については会議関連の書類は継続してプロジェクターを活用して削減しているが、まだ紙の利用は多く減らせる余地はある。手順書も委員全員に紙での配布はやめ関連部署のみ変更。今までこれらを放置し紙使用量を意識してなかった。
・書類の簡素化(集約印刷、裏紙利用、PDF保)	○	
・帳票見直しによる印刷物の削減	○	
・一般ごみの量を把握 ギョウギョウ作戦実施	○	
・EA21会議資料の共有フォルダ化等によるコ	○	



取組紹介欄

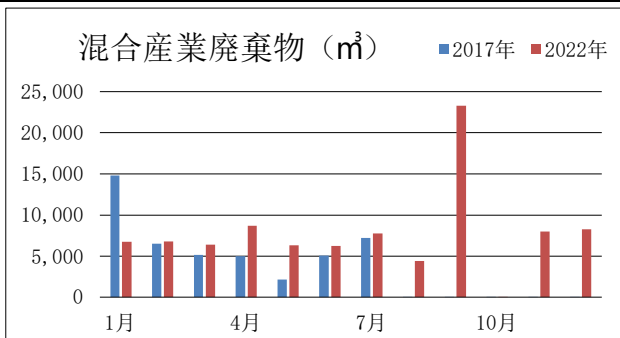


次年度の取組内容

新しい社食弁当会社への切替は使い捨て容器排出からプラ容器にかえていることも削減になっている。各部署別などでごみ袋からの使用量を公表したことは削減意識の向上につながった。次年度はそのデータ公表とともにさらに外部からの持ち込みゴミを減らす対策をする。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	61	74	72	99	70	82	112	67	54	54	84	96
2022年	59	69	67	70	44	83	64	60	51	64	90	68

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	×	分析結果としては該当するPCBトランスを今年度中に処分したい。
・材料の歩留まり向上(材料会議)	○	
・加工ミスによるロスの低減確認(ISO会議)	△	
・機械、研削工場タンク内清掃で水溶性廃液の	△	
0	◎	



取組紹介欄



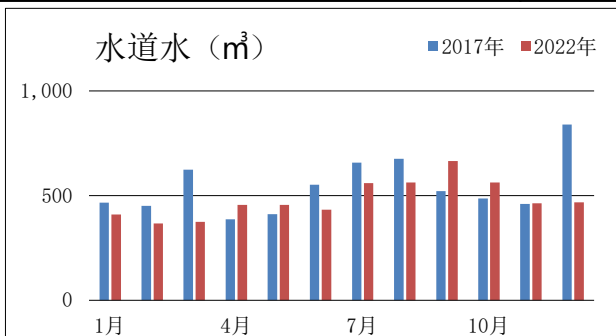
低濃度PCB処分予定

次年度の取組内容

次年度は熱処理炉の低濃度PCB変圧器に該当の入替を予定しており取り外し後の保管が必要となるが、早期の処分手続きを進めたい

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	14,782	6,524	5,133	5,012	2,152	5,072	7,222	2	2	2	3	2
2022年	6,732	6,793	6,380	8,699	6,324	6,264	7,734	4,390	23,286	5	7,973	8,263

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	○	累計としては達成されている
・節水シールの貼り付けと意識づけ掲示を継続	○	
・機器メンテナンス～定期的な漏水箇所点検	△	



取組紹介欄



節水ご協力の明示

次年度の取組内容

機器不良の漏水は水道利用消費に大きな損失となった、設備点検方法を引き続き実施する。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	466	452	624	387	412	553	658	677	523	487	459	839
2022年	410	366	374	456	456	434	559	562	666	564	464	467

洗剤使用量削減	達成状況	取組結果とその評価
数値目標	○	SDS教育は安全衛生上も含め継続していく
・製造課使用薬剤、危険物の取り扱い教育の実	○	
・試験室で使用する薬品管理(既存と新規購入)	○	
・熱処理製造部購入の化学物質確認システムの	○	

取組紹介欄

使用薬品取扱い
教育講習



次年度の取組内容

環境影響も大きいPRTR物質を含む化学薬品の取り扱い量は、脱硫剤(少量)のみになるが量の把握は現場への聞き取りのみであったが購入量検索データベースを作成したことにより正確確実なものとなった。新規の取り扱いになる薬品類に関しては安全衛生上の観点からも中途、新入社員の未受講の社員にも取り扱い教育を継続していく

環境に配慮した生産活動	達成状況	取組結果とその評価
・改善提案実施活動(改善事務局)	130件	太陽光パネルは8月にPCS4本体（故障警報「G」F76:DCリレー異常で修理。日照量との関係もあり数値だけの落込み以外のモニターからの異常にも気を付けたい SDGs教育、5S活動を継続中、上期、下期と年間を通して社内5S改善発表会開催、今年も感染症対策として3密を考慮し各部各所に分かれWEBにて開催をおこなった
・全社5S活動の推進、クリーン作戦の継続実施	○	
・太陽光パネルの運用 発電量監視EA21委員会	○	
・SDGs教育(SDGs、男女共同、人権、健康メンタル)及び「環境改善いいね賞」選考	○	

取組紹介欄

次年度の取組内容

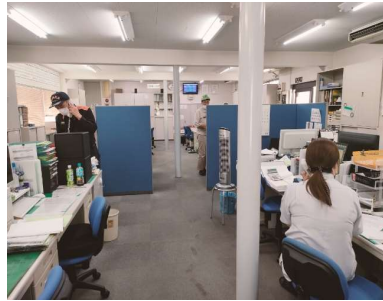
改善実施活動は件数のみではなく創意工夫のある内容向上を意識しながら提出1件/1人当りで継続して全員参加をめざす

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無 法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物(金属くず、木くず、消耗品屑等)
騒音規制法	空調機・空圧機
振動規制法	走行クレーン
大気汚染防止法	排出基準の遵守、排出濃度の測定・記録の保管
省エネ法	第2種特定工場の届出、管理者の選任
温暖化対策推進法	対策計画、実績報告
フロン排出抑制法	簡易点検の実施、定期点検の実施、点検記録の保存
PRTR法	指定化学物質の取扱量把握、SDSの受け取り
労働安全衛生法	SDS義務640物質の把握
No x・PM法	適合する自動車の使用
消防法（危険物）	危険物の管理
PCB処理法	対象品の届出保管
毒物及び劇物取締法	盗難/漏えい防止

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されてきていました。なお、その他については違反、訴訟等は過去3年間ありません。省エネ法に関連した管理基準の作成に対応します。

□緊急事態対応訓練 本社工場

緊急事態の想定: 火災消火と津波を想定した避難訓練	
■実施日: 令和4年8月30日	■実施場所: 会社内
■参加者: 本社当日出勤者全員	■実施内容: 通報訓練、消火訓練、避難訓練、応急処置AEDの使い方
■評価: 消防署立会指導での訓練として西成消防署員が来訪、今年は通常の訓練に加え、災害により意識不明となった人員に対	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
■実施状況の様子 本社	
応急処置訓練  消防署員と通報訓練 	

□緊急事態対応訓練 東京営業所

緊急事態の想定: 火災消火と災害を想定した避難訓練	
■実施日: 令和4年10月21日	■実施場所: 東京営業所
■参加者: 東京営業所従業員全員、本社防火管理者、環境管理責任者	■実施内容: 消火訓練(消火器の違い、使い方)・水害想定での避難訓練、火災想定での通報訓練
■評価: 反省点 今回は人命第一に避難したが、最低限の持ち出し物は決めておこうと思った。	手順書の変更の必要性 ☒ あり ☐ なし
■実施状況の様子 本社防火管理者からの消火方法説明～六郷神社境内を経由～六郷小学校まですみやかに移動	
  	

□緊急事態対応訓練 九州工場

緊急事態の想定: 火災消火と津波を想定した避難訓練	
■実施日: 令和4年11月23日	■実施場所: 九州工場～避難地 二島市民センター
■参加者: 九州工場従業員全員	■実施内容: 消火器の使い方、消火器の設置場所・火災時の消防署への通報方法・火災時の避難と行動
■評価: 今回は津波も想定し山側への避難 雨天の中であつたが避難場所へは迅速に行動できたが、途中 踏切や横断歩道のない道路をわたるので十分気を付けたい 反省点は今回、火災報知機のベルの取り扱いについて説明してなかったので業務の合間を見て説明しようと思う。	手順書の変更の必要性 ☒ あり ☐ なし
■実施状況の様子 消火器の取扱い等説明後 二島市民センターに集合	
  	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

・二酸化炭素の削減目標については省エネ法への届け出にもとづく管理標準、点検方法見直しと省エネ改善実施で年初のEA21委員会で目標数値を2017年度基準通りとしている。九州、東京については単体での基準経営計画目標設定と進捗管理を開始したが継続していく

	＜見直し・指示＞
◇自社を取り巻く環境問題の変化 （社会的情勢、利害関係者の要求等） ・稼働している231号炉の変圧器には低濃度PCB廃棄物の可能性があり処理期限が、2027年3月31日となっていることを意識し、その他稼働しているコンデンサ、トランス処分が今後の課題となります	◇環境方針 ・部年年度経営計画に引き続き環境関連項目とSDGsへの取り組みを付記し策定内容を着実に実施してください。方針の見直しはなし
◇環境目標・活動計画の達成状況 ・電力による二酸化炭素2%削減や、都市ガスによる二酸化炭素2%削減等の目標は、基準年から達成されているが世界情勢から燃料費のコスト増がきびしいものとなっています。	◇環境経営目標・環境経営計画 ・カーボンニュートラルへの取り組みは熱処理業界全体の課題でもあるが、二酸化炭素の削減目標は、生産量の増減や設備の更新等により、達成状況が左右されるが、2023年度は、熱処理炉の省エネバーナーの導入、空気比の省エネ改善のさらなる実施で二酸化炭素削減目標は、前年と同じ基準年比2%削減を目標とします。
◇その他 ・利害関係者からの苦情・要請等 白煙に対して、近隣から問い合わせがありましたが安全、環境上に問題ないことを説明 ・環境上の問題点等	◇その他 ・部品供給の遅れもあり着手できないが2022年度計画の油煙を減少させる消炎装置の設置を実施してください。 ・LED照明の範囲拡大を計画検討してください。 ・九州工場は建屋断熱化工事後の効果的な空調設備の導入を検討してください
【今回の評価結果と今後の経営視点】 世界情勢からの燃料費増やカーボンニュートラルへの取り組みは業界全体の大きな課題であります。新しい省エネバーナーや、加工方法の見直しなど提案できることを模索していくことが必要、おもわぬ潜在的なPCB含有物がないかは広範囲に注意が必要、台数増からの軽油や廃棄物量は熱処理炉の断熱材更新や5S活動の推進で増加したが、その他は2017年度比では数値上は達成されている結果でしたが、今回の結果をレビューして、2023年度計画で改善していきます。	

□これまでの環境活動の紹介

・2022年8月本社変電設備更新



北受電室のキュービクルを更新しました。老朽化もありますが以前より少し高さをかせいだ位置への移動でややBCP対策にもなります。なにより期待したいのは変圧設備の更新による省エネで、新しいトップランナー省エネ変圧器は、すでに30年以上経過の老朽な変圧器に比べると無負荷損(鉄損)、負荷損(銅損)とも損失が60%以上の大幅に改善が図られています。今後の使用方法にもよりますが省エネ効果に期待がもてます。

工事の様子

